

会 議 録

| | |
|-----------|---|
| 会議の名称 | 令和3年度第1回和泉市生涯学習推進委員会 |
| 開催日時 | 令和4年2月25日（金） 10:00～11:15 |
| 開催場所 | 和泉市コミュニティセンター 1階 中集会室 |
| 出席者 | 生涯学習推進委員（9／9名出席） 傍聴者1名 |
| 会議の議題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員紹介 2. 教育長挨拶 3. 和泉市生涯学習推進委員会規則及び組織、事務局紹介について 4. 議案 <ul style="list-style-type: none"> （1）委員長及び副委員長の選任について 5. 報告 <ul style="list-style-type: none"> （1）令和3年度いずみ市民大学の実績報告について （2）令和4年度いずみ市民大学の事業予定について （3）（仮称）第3次和泉市生涯学習推進プラン・第2次和泉市スポーツ推進基本計画策定のスケジュールについて 6. その他 |
| 会議の主旨 | 生涯学習活動の支援に向けた方針検討並びに生涯学習施策の総合的な推進に向けて調査及び審議を行う。 |
| 会議録の作成方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 |
| 記録内容の確認方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 |
| その他の必要事項 | |

■ 審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（司会進行：事務局）

・事務局より会議開催についての説明

本会議は公開することとなっており、本日の会議は傍聴希望者が1名いることを報告。

会議資料の確認。

1. 委員紹介

2. 教育長挨拶

3. 和泉市生涯学習推進委員会規則及び組織、事務局紹介

・和泉市生涯学習推進委員会規則について簡単に説明。組織については、委員に名簿を配付し、構成員の説明。事務局紹介。

・事務局より出席委員数の確認

委員総数9名のうち、出席委員9名、欠席者なしとなっており、和泉市生涯学習推進委員会規則第6条の規定に基づき、本会議は成立していることを報告。

4. 議案

（1）委員長及び副委員長の選任について

・和泉市生涯学習推進委員会規則第3条の規定に基づき、委員の互選により委員長と副委員長を選出。委員長に駒澤委員、副委員長に井上委員と決定。

（司会進行：駒澤委員長）

5. 報告

（1）令和3年度いずみ市民大学の実績報告について

（2）令和4年度いずみ市民大学の事業予定について

事務局説明

報告（1）

まちづくり学部の実績報告として、各学科25人の定員に対する受講者数は、まちづくり本科が12人、まちづくりスキルアップ学科が7人、観光おもてなし学科が13人となっている。卒業する条件としては、まちづくり本科とまちづくりスキルアップ学科については全12回中9回以上、観光おもてなし学科については全11回中8回以上受講された方となっており、卒業者の人数は、まちづくり本科は3人、まちづくりスキルアップ学科は7人、観光おもてなし学科は12人、合計22人となった。

教養学部の実績報告として、前期6講座、後期6講座を実施している。各講座の定員50人に対する申込者数は記載のとおりで、後期講座については、現在2講座については終了し、残りの4講座については、現在も実施中である。申込者数については、例年並みの応募に加え、定員数を上回る応募がある講座もあり、中でも歴史に関する講座は、今年度も人気があった。また、今年度の後期講座から申込方法が変わり、今までは先着順による申込としていたが、人気の講座では何時間も長蛇の列ができるということがあったので、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からも、先着順の受付をやめて往復はがきによる申込とし、後

日抽選により決定する方法に変えた。今後も、教養学部については、引き続きこの方法で行う予定である。

7ページから9ページの3つのマップは、観光おもてなし学科において、受講者が実際にまち歩きを行い、それをマップに落とし込んで作成したものである。昨年度の和泉府中コース、伯太町コース、和泉中央コースに引き続き、今年度は池上曽根コース、北信太コース、光明池コースを作成し、市民がまち歩きをする際に、活用していただけるように作成した。今後は、観光おもてなし処などに置き、活用していく予定となっている。

報告（2）

10ページから11ページに、令和4年度のまちづくり学部と、教養学部の前期講座の予定を記載している。平成28年度にスタートした、いずみ市民大学は6年目を迎え、まちづくり学部卒業生で作られた学友会の方々が、本市のまちづくりにおいて大いに活躍されていることは、市民大学の設置目的である「市民の学習意欲の醸成、活力ある地域社会の実現とまちづくり活動を担う人材の育成」が実を結びつつあるものと考えている。来年度から7年目に入るわけだが、なにより新型コロナウイルスの影響が懸念される場所である。そのような中、来年度のスケジュールを立てるのが非常に難しいところではあるが、来年度も今年度と同様のスケジュールを予定して計画した。

まちづくり学部については、引き続きコーディネーターとして、NPO法人サインの宝楽氏と、NPO法人サービスグラントの堀氏をお願いし、3つの学科で実施する予定となっている。

教養学部の前期講座については、11ページに記載の6つの講座を予定しており、桃山学院大学の先生やピアニスト、大学の元学長、名誉教授の方々に協力いただき、実施する予定となっている。

周知方法としては、広報3月号に挟み込む「和泉シティプラザ通信」において、募集する。また、パンフレットも作成し、関係機関や関係部署に周知を図る予定である。まちづくり学部については3月10日から募集を開始し、教養学部については往復はがきによる申込の締切日が3月31日となっている。

委員：まちづくり学部卒業式に我々に案内は来ているのか。

事務局：卒業式の案内について、現在はしていないが、今後は案内を送る方向で検討する。

委員：教養学部の歴史・語学・芸術的な分野等の講座は、どのようにして決めているのか。もっと他の講師を呼びたい場合はどうすればいいのか。

事務局：市・事業委託先の公共施設管理公社・桃山学院大学で年に数回会議を行い、次の講座の講師について意見交換をし、いい人材が見つければ直接交渉をしている。6講座のうち3講座については、桃山学院大学に講師を依頼している。お薦めの講師がいる場合は、市に連絡をいただいたら、こちらから会議にかけることは可能である。また、来年度には、後で説明のある生涯学習推進プランを策定していくので、受講生のニーズや講座の中身等を吟味していきたい。

委員：まちづくり学部のターゲットの年代層と参加している年代層、またコロナ禍でオンライン会議等は行われているのか、教えてほしい。

事務局：18歳以上の方々に募集をしており、ターゲット層を設けてはおらず、若者から高齢者まで幅広く来ていただくことができる講座になっている。参加している年代は、やはり時間に余裕のある高齢者の参加が多

い傾向はあるが、20代から70代までの幅広い年齢の方々が参加している。コロナ禍でのオンライン会議については、コーディネーターと話しているが、進んではない。ただ、まちづくり学部は各講座の参加人数が10人程度で、広い部屋で間隔をあけて行っているため、オンライン化に対する要望もない。

委員長：私も長い間、まちづくり学部に参加しているが、若い人でも参加しやすいように土曜日に開催している。また、オンライン化については、この大学では横の人と連携しながら進めていくことが重要であるので、パソコンを通じて話し合うことは、できるかもしれないが、望ましくないと思う。

委員：オンラインの枠を作り、来たい人は来て、感染が怖い人はオンラインで視聴するというような方法もいいのではないかと。しないよりは、する方がいいと思う。

副委員長：私も大学で対面とオンラインの両方を行っているが、それには費用もかかるし、講師も大変である。人間はどちらかに集中する傾向があるので、どちらからも質問が来ると、答えるのも大変である。

委員：どちらかに決めた方がいいと思う。

副委員長：いろいろなことの兼ね合いがあると思う。

委員：それでは、「オンライン会議の仕方」の講座を作って教えていくのはどうか。

委員長：それは、今後事務局の方で検討していただきたい。他に、何かあるか。

委員：いずみ市民大学の参加者は、以前から参加している人が多いのか、新規の参加者が多いのか教えてほしい。

事務局：教養学部については、毎回講座の内容が全く違う分野もあるので、新規の参加者が多い傾向にある。まちづくり学部については、毎年継続して受講されている方もおられ、参加者の半分程度が新規の参加者であると思う。

委員：広報の方法について教えてほしい。

事務局：「和泉シティプラザ通信」を広報誌に挟み込み、全戸配布しているのに加え、パンフレットも作成し、関係機関に置いて周知を図っている。また、まちづくり学部においては、6月まで募集をしているので、3月の申込みの状況を見て、申込者数が少なければ、新たな投げかけとしてSNSを活用していこうと考えている。

委員：いずみ市民大学の内容について詳しく知りたいので、委員として現場を見学させていただくのは可能か。

事務局：見学に来ていただくことは可能であるので、見学をしたい講座があれば、生涯学習担当まで連絡をしていただきたい。

(3) (仮称) 第3次和泉市生涯学習推進プラン・第2次和泉市スポーツ推進基本計画策定のスケジュールについて

事務局説明

12ページの計画策定の背景と目的として、本市では、平成14年に「和泉市生涯学習推進プラン」、平成25年に「第2次和泉市生涯学習推進プラン」を策定し、いずみ市民大学の設置など生涯学習施策の推進を図ってきた。また、平成15年に「和泉市生涯スポーツ振興基本計画」、平成25年に改訂版「和泉市スポーツ推進基本計画」を策定し、生活習慣病の予防等も含めたスポーツ施策の推進を図ってきた。

このたび、令和4年度に両計画の期間が終了することから、引き続き、生涯学習やスポーツ振興に関わる多様な施策を総合的かつ計画的に推進していくため、これらの計画を改定する。

なお、前回会議で報告していた、和泉市文化芸術・スポーツ振興条例については、条例として制定はせず、両計画において内容を盛り込んでまいりたいと考えている。

次に、計画の構成と内容として、和泉市教育大綱の体系に基づきスポーツ振興を含めた生涯学習全体の計画とし、両計画を1つの冊子として構成していきたいと思っている。具体的には、第1編に計画の概要として和泉市の状況などの共通事項を盛り込み、第2編を第3次和泉市生涯学習推進プラン、第3編を第2次和泉市スポーツ推進基本計画とし、最後に資料編を掲載する予定である。

次に、計画の期間として、令和5年度から令和14年度の10年間の計画にする予定である。

次に、計画策定の体制として、和泉市生涯学習推進プラン・和泉市スポーツ推進基本計画策定委員会を立ち上げる予定である。策定委員会の委員構成は、関係団体の代表、学識経験者、公募による市民を考えている。

ここで、委員の皆様にお願ひがあり、ただいま説明した策定委員会の委員として、来年度にぜひ参画していただきたいと思っている。ただし、PTA協議会代表と、桃山学院大学の学識経験者については、スポーツ推進審議会の委員の中からそれぞれ選出していただく予定になっている。また、公募委員については、4月以降、あらたに募集する予定である。委員の就任依頼については、年度が変わってから、あらためて依頼をする。

次に、計画策定に向けたスケジュールは、記載のとおりである。下線部のところが、策定委員会において審議や意見交換をお願いする予定となっており、来年度の1年間で計画を策定していきたいと思っている。

委員：スポーツ推進基本計画を作っていくということだが、スポーツ推進の範囲は。

事務局：ソフト・ハード面含めスポーツ全般について掲載していく。

委員長：昔は生涯学習とスポーツの計画を1本化していたが、その後、別々に計画を策定した。そして、またこの度、生涯学習とスポーツを1本化して総合的に計画を策定していくということである。

委員：この計画のゴールはあるのか、どうなれば成功なのか。

副委員長：人を繋いでいかないといけない。現在、急速に人がいなくなるのが進んでいることに驚いている。我々がやらなければいけないことは、地域を維持し、人間も維持していくことこそ、この会議で考えていかなければならないことだと思う。地域の人材づくり、特にいずみ市民大学まちづくり学部はそういうところが必要だと思う。

委員：この計画で市民アンケートを実施すると思う。生涯学習部の中で、私が興味を示したのは、課の名称を「文化財振興課」から「文化遺産活用課」に変更したことである。これを時流という見方もあるが、和泉市の文化財について市民と共に幅広く活用して、市民のアイデンティティに訴えかけるという表れかと思う。そういうことから、市民アンケートについてもさまざまな立場から幅広く、多様な形での設問を考えていただきたい。

委員長：事務局の方で検討していただきたい。

6. その他

委員長：事務局から報告事項などないか。なければ、これをもって、本日の生涯学習推進委員会を終了する。